

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	雪室スノーパル利活用促進事業
事業主体 (連絡先)	山ノ内町雪室利活用協議会 (0269-33-3111)
事業区分	(5)環境保全及び景観形成に関する事業、6(オ)その他 (産業振興及び雇用の拡大)
事業タイプ	ソフト
総事業費	862,241 円 (うち支援金 : 674,000 円)

これまで実施したイベントの反省を踏まえ、アイテムを「雪室に貯蔵したりんご」にフォーカスし、町内旅館に協力してもらい雪室商品の魅力を訴求する。

あわせて雪室施設の見学・商品販売などを行う通称「雪室コンビニ」も実施し、雪室の存在をさらにアピールしていく。

①雪室りんご試食イベント

町内旅館の協力で宿泊者に雪室りんごを提供し、アンケート回収する。

②雪室イベント (雪室コンビニ)

4/27、28 の 2 日間にわたり開催



【4/28 雪室イベント来場者】

【目標・ねらい】

- ①雪室商品の魅力訴求
- ②雪室の認知度向上
- ③雪室と観光の連携
- ④雪室利用者の呼び起こし

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①

協力旅館 13 件、アンケート回答宿泊者 246 組。

雪室りんごに対してポジティブな意見が多数を占める一方、個体差や旅館ごとの保存方法の違いによる品質のブレ、今の時代いつでもりんごを食べられるので、雪室りんごだけではインパクトが弱いという意見があった。

②

北信管内に 5 万部の広告を打ち、2 日間で 222 人が来場、売上 135,380 円となった。商品販売以外に、開花時期を調整した桃の花プレゼントを行うことで、雪室の効果・仕組みを分かりやすく訴求した。

※自己評価 【 B 】

【理由】

雪室イベントでの施設認知・訴求は成果が上げられている。雪室商品の魅力訴求として、りんごを扱ったが、狙いは良いと思うので、あとは方法の工夫。

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

3 年間県の補助金をいただくなかで、ほぼ知名度はなかったと言って良い雪室が、多くの方にとってもらう機会が作れた。昨年度は首都圏に目を向け、今年度は地元に戻りという形で雪室・雪室商品の訴求、ブランド化の推進を図ってきた。雪室は施設規模が限られてしまい、多品種展開は難しいということは昨年・今年の事業実施の中、協議会で共有できたと認識している。

今回の雪室りんごにフォーカスした展開は、基本的な狙いは悪くなかったと思うので、訴求方法の再検討や選定材料の見直しなどブラッシュアップし、雪室のブランド化につなげていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある